

上原専祿 うえはら せんりく 歴史學者、經濟學博士。明治二十二年五月（二十一年
 京都生れ、昭和五十年十月）二十八日歿（八九一―九五）。大正十一年東
 京高等商業學校卒。ドイツ留學後、昭和二年東京商科大学教授、二十
 一年東京産業大學（のち一橋大學）學長。三十一年國民文化會議議長。
 ドイツ中世史專攻から世界史の構築を旨とした。

著書『家君退隱
 記念文集史心抄』（昭和十五年九月、二十日刊）、ラムナ

レヒト著『歴史的思考入門』（譯、昭和十七年四月、二十日日本評論社

『經濟學名著選集』（）、『歴史の省察の新對象』（昭和二十二年一月

二十日弘文堂書房）、『現代思想の展望』（合著、昭和二十二年九月

十五日白鷗社『現代思想講座』（）、『獨逸中世の社會と經濟』（昭和

二十四年一月、二十日弘文堂）、『講稿―その後の日本』（合著、科學

者不知問題懇話會、昭和二十五年七月十日東京大學協同組合出版部）、

『學生と社會』（合著、清水幾太郎、大河内一男編、昭和二十五年八月、二十日日本

評論社『學生シリーズ』（）、『日本人の創造―教育對話篇』（京橋誠

也共著、昭和二十七年六月十六日東洋書館）、『若き日の讀書』（合

著、瀬沼茂樹編、昭和二十八年四月十五日河出書房『河出新書』（）、

『教育を守るための心』（合著、瀧口泰編、昭和二十九年一月、二十八日

柏木書房）、『世界危機と現代思想』

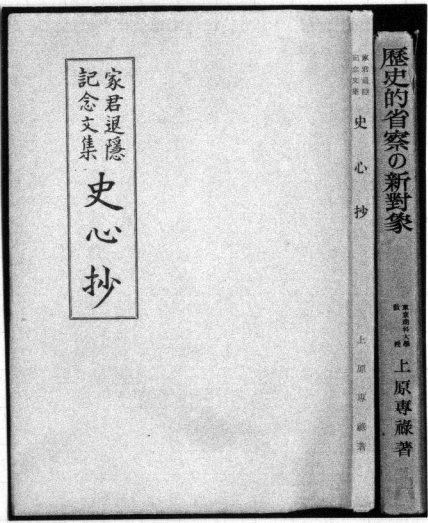
（合著、草薙正大編、昭和二十九年

四月、二十日理想社）、『ロシア人の

ところ―現代へ

の省察』（昭和

二十五年五月、二十



- 白理論社）、『若くは河』（合著、昭和二十一年一月五日河出書房「河
出新書」）、『日本のあけぼの―建國と元寇のめぐりて』（合著・三
笠宮崇仁編、昭和二十四年一月五日光文社「カッパ・ブックス」）、
『日本國民の世界史』（編、昭和二十五年十月二十一日岩波書店）、
『世界史―西洋』（江口朴郎共編、昭和二十九年四月十日岩波書店
「岩波小辞典」）等。